

役員の改選がおこなわれました

そよかぜだより

役員の改選がおこなわれました

社会福祉法人そよかぜの機関紙

第138号

発行2019.7.21
年4回発行

社会福祉法人そよかぜ
羽村市栄町3-3-1
042-578-0855
fax.042-578-0466



写真上段左から、石田監事、羽村監事、羽村理事、堀内理事。写真下段左から、田口理事、加藤理事長、井上副理事長、田村理事。

理事長

加藤照夫

副理事長

井上克巳

理事

田村義明 田口尚子 羽村富男 堀内政樹

監事

羽村義男 石田 茂

就任のご挨拶

社会福祉法人そよかぜ 理事長 加藤照夫

令和元年6月28日社会福祉法人そよかぜの評議員会におきまして、理事改選の承認を得て同月29日開催の理事会で理事長及び業務執行理事の選任がそれぞれ行われ、役員名簿のように不肖私が理事長に就任することとなりました。微力ではありますが皆様のご支援をいただきながら精いっぱい務めさせていただく所存でございますので、今後とも変わらぬご指導をよろしくお願い申し上げます。

前任の野崎理事長は、私が平成16年6月本会がNPO法人当時に監事として参画の折にはすでにその

手腕を発揮されており、社会福祉法人の設立準備に向かっておりました。福祉作業所ひばり園施設建設に関わる用地の確保や建設費の確保、法制度の改正に伴う定款を始めとする諸規程の改定整備、更には精神障害者支援施設スマイル工房の運営統合及び同施設の新築移転などを順次完了させて、真にこれからの羽村市における障害者支援活動の拠点を創り上げてきたと言えます。こうした礎に立ってその真価を發揮させるための役割を令和元年からの時代に託されたものを感じております。法人役員一同をはじめ各施設所長及び担当職員と目標を一にしながら本分を全うしてまいりますので、よろしくご鞭撻のほどをお願い申し上げまして、就任のご挨拶とさせていただきます。

平 成31年4月に地域の皆さまとの出会いと交流を深める場でありたいという願いのもと、スマイルカフェをオープンし、3か月が経ちました。オープン当初より多くのお客さまにご来店を頂き、また温かなお言葉やご支援を賜りましたこと心より御礼申し上げます。

スマイル工房は、スマイルカフェのオープンに伴い、軽作業部門で干しえのきの製造を始め、パン・クッキー部門では、従来のパンやクッキーだけでなく、焼き菓子など新たな商品を開発しました。

利用者の方々は、新たな作業を行う上で、精神的にも体力的にも大変さを感じていたことと思います。その反面、自分たちの手で作った商品が店頭に並びお客様の手に

届く、またその想いが伝わる瞬間は利用者、職員ともに、多くの喜びとやりがいを感じることができました。

現在、日々の作業の中で利用者と職員が活発に意見を交わし、より作業がしやすい環境づくりに取り組んでいます。まだまだ、不慣れな点もあるかと存じますが、現段階までの環境を作り上げてこられたのは、利用者一人ひとりの力が大きく関わっていると思います。

今後も利用者が、地域の皆さまとの交流の中で自信とやりがいを持ち、生き生きと活動できる環境づくりに取り組みます。また、お客様から愛され応援して頂けるような施設を目指したいと思いますので、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

福祉作業所スマイル工房【地域交流スペース】

Smile Café

お客様との関わりをもつ中で
一番良かったと感じる事は何ですか？

- ・自分が淹れたコーヒーが『美味しいかった』と言って頂けたことです。
- ・「コーヒー美味しい」と声をかけて頂けたのが嬉しいです。
- ・お客様から笑顔を返されたことです。
- ・お客様と交流を持てたことが嬉しかったです。
- ・一度ご来店されたお客様に再度ご来店を頂けたことです。
- ・作業所で製造された商品がお客様にご購入頂けたことです。
- ・「美味しいかったよ。ありがとう」と笑顔で言って頂けたことです。
- ・お客様に笑顔が素敵だと言って頂けたことです。

福祉作業所スマイル工房のSmile Caféが開店してから三ヶ月が経ちました。カフェ業務、パンや焼き菓子などの製造業務に携わる利用者にも変化がありました。今号では、その声を集めました。



カフェの作業を行うようになり、以前と比べてどんな変化がありましたか？



- ・カフェに入る時は大変緊張して本当にコーヒーを提供できるのか不安でしたが、お客様に認められるコーヒーを提供できるようになりました達成感や喜びを感じています。
- ・体力的に疲れる事もありますが、仕事に向かう姿勢が前向きになってきました。
- ・オープン当初は緊張していてゆとりが無く必死で作業を行っていましたが、現在は顔を上げ周りを見るゆとりができ、先を見据えて作業ができるようになりました。
- ・相手のことを考え、周りに配慮しながら行動できるようになりました。
- ・仲間同士のコミュニケーションをとる練習にも繋がっています。
- ・コーヒーをハンドドリップで淹れができるようになりました。
- ・当初より上手に淹れられるようになりました。
- ・みんなで団結し、店舗運営をしていく勉強になりました。
- ・周りの仲間へのサポートができるようになりました。
- ・細かいことに気が付けるようになりました。
- ・緊張感をもち作業を行えるようになりました。
- ・心構えを常に考えるようになりました。
- ・人と接することが怖くなくなりました。





以前と比べて商品を製造することへの気持ちに変化はありましたか？

- ・常においしいパンを作ることを心掛けています。
- ・以前からどんな時も一生懸命作っています。
- ・美味しいと喜んで下さっていると思うと嬉しく感じます。
- ・より綺麗に作ろうと思います。
- ・以前よりやる気が出てきました。
- ・以前にも増してやる気がおきました。
- ・体調が良い時も悪い時も、
安定した高品質な商品を製造する意識が高まりました。



自身が製造した商品を、
お客様がお買い求め頂いている様子を見て
どう思いましたか？

- ・お客様にご来店を頂けることが嬉しいです。
- ・想像していた以上に多くのお客様にご来店頂けて驚きました。
- ・頑張って作ったパンやクッキーをお客様に喜んで頂けることが嬉しいです。
- ・窓越しに商品を選んでいる様子が見られて嬉しいです。
- ・カフェで多くのお客様にご購入頂けて嬉しいです。
- ・お客様に「美味しい、また買いたい」と、ずっと思っていただけるように
心を込めて作ってます。



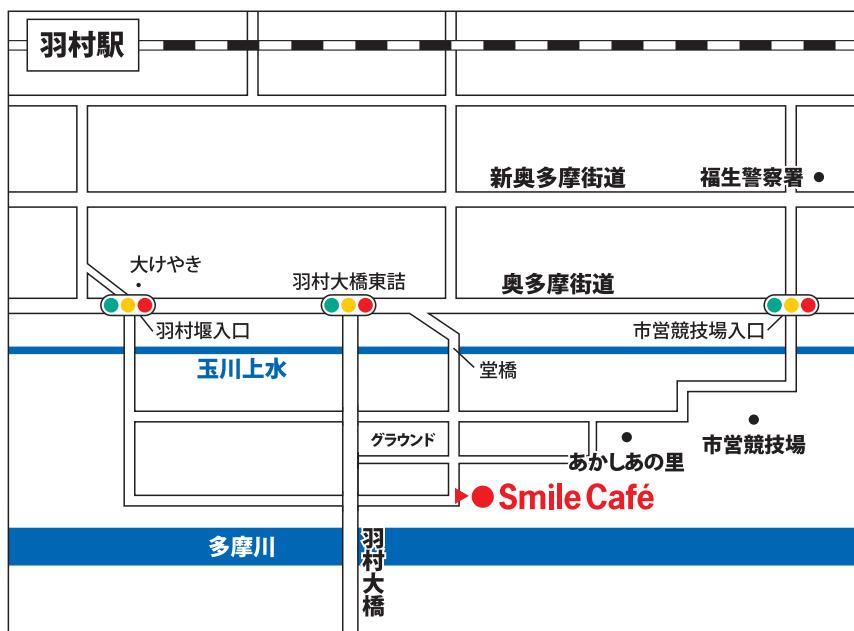
福祉作業所スマイル工房 [地域交流スペース]

Smile Café

営業時間

火・木・金曜日
10:30～14:30

東京都羽村市玉川2-10-1
☎042-578-2723



福祉作業所スマイル工房

Smile Café開店3か月が経つて～今後



4 月1日に開店した「スマイルカフェ」の営業もようやく落ち着きを取り戻してきました。開店当初は、何から何まで初めての事ばかりで利用者も職員も戸惑いの連続でした。ご近所の方々を中心に多くのお客様に足を運んでいただいたおかげで、上々のすべり出しを迎えることができました。ほとんどの利用者はカフェでの接客は初めてだったこともあり、事前に研修を重ねてきたものの、緊張した面持ちでのカフェデビューでした。しかし、経験を積むことで今では、だいぶ慣れて余裕の表情が見られます。ドリップコーヒーを淹れる手つきも“様”になり、挨拶も板についてきました。今までは、職員と一緒に作業をするのが日常でしたが、地域の方々と直接触れ合う機会のある「カフェ」という作業現場は、新鮮でいろいろな発見や想いが感じられた空間であったことと思います。

開店から3か月経った今、開店前及び直後からご関心を頂いていた近隣のお客様のご来店はほぼ一巡した様子ですので、今後は、新たなお客様にお越しいただくような工夫が必要になります。

その取り組みの一環として、夏本番に向けたメニューの追加・変更を行ったり、GoogleサイトやFacebookといったSNS等を活用して、いつでも「スマイルカフェ」の情報を広く皆様にお伝えできる環境を整えてきました。また、夏休み時期に合わせた企画も進めようと考えています。

「スマイルカフェ」が地域交流スペースの理念である“施設・利用者と地域との相互理解の場”としての役割を担っていけるよう、今後とも、地域の皆様をはじめ多くの方々のご支援・ご理解を賜りながら、利用者・職員一同頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

社会福祉法人そよかぜ

平成30年度 事業実績概要報告

社 会福祉法人そよかぜ創設10周年の節目となる本年度は、今までの経験や現在の各事業の実施状況等を踏まえ、法人本部並びに各事業所の将来的な展望を見据えた目標を本年度事業計画に掲げ、その達成に努めてまいりました。特に本年度事業計画の冒頭で述べられた二つの重点目標について、一つ目は、念願であった福祉作業所スマイル工房新施設建築工事が完了し、

当初計画どおり10月1日から新施設を開所することができました。本工事の実施に際しましては、羽村市行政当局のご指導、ご支援と共に建築予定地周辺に居住される方のご理解とご協力の賜物と心より感謝いたします。二つ目は、近年急速に進む少子高齢化により福祉人材の確保定着が大きな問題となるなか、そよかぜの将来にわたる安定した事業運営を実現するための組織体制整備や職員配置

等の見直しなどに取り組みました。また、平成30年10月1日から新たに就労定着支援事業を開始しました。本事業は、従来の就労移行支援における職場定着支援を独立した指定事業として国が定めたもので、主に福祉作業所ひばり園就労移行支援事業と連携して実施しました。

この他の事業につきましても、特に大きな問題などなく概ね順調に推移することができました。

社会福祉事業

福祉作業所ひばり園(就労移行支援=定員6名)

利用者5名が一般企業(清掃1名、物流センター・商品管理3名、調理補助1名)に就職しました。

福祉作業所ひばり園(就労継続支援B型=定員70名)

主力の自動車部品加工作業の受注量が前年度よりやや下回りましたが、農業機械部品個装作業や出張所のリサイクルショップくれよんの業績は前年度を上回り、全体として堅調な授産活動ができました。

福祉作業所ひばり園(就労定着支援)

平成30年10月から新規事業として開始しました。就労移行支援の利用を経て一般就労し、就職後7か月目より3年6ヶ月までの利用者が対象となります。本年度は利用者5名に対して、職場定着支援を行いました。

福祉作業所スマイル工房(就労継続支援B型=定員40名)

平成30年5月に羽村市玉川2丁目に完成した新施設に移転準備期間を経て、10月に羽村市羽中3丁目の旧施

設から移転し定員40名の就労継続支援B型事業所として新たなスタートを切りました。新規事業の地域交流スペースの立ち上げ準備や新施設での授産活動(パン・クッキー製造、軽作業等)を行いました。

指定特定相談支援事業所ゆい(利用契約者数82名)

本年度は事業開始から4年目となり、今までの経験や実績を踏まえ、より的確な業務遂行ができました。職員体制整備や業務の効率化を図るためのIT機器活用など積極的に進めました。

公益事業

羽村市障害者就労支援センターエール

利用登録者人数が133名(内当年度新規登録者13名)、新規就職者は23名(内新卒者11名)でした。前年度から始まった羽村市役所内実習は、本年度9月と3月にそれぞれ5日間実施しました。市役所各課から依頼された業務等を通して、就労上のビジネスマナーや作業スキルなど実習を通して多くを学ぶことができました。

収益事業

資源回収

地域の皆様のご協力により、前年度並みの事業実績が確保できました。本活動の担い手であるボランティア募集のため、羽村市社協だよりを活用するなどの取り組みも行いました。

平成30年度 社会福祉法人そよかぜ決算報告

法人全体 事業別収入 598,867,984円

単位：千円

福祉作業所ひばり園 (就労移行支援・就労継続支援B型) 179,133	福祉作業所スマイル工房389,794	指定特定相談支援事業所ゆい2,848→
		羽村市障害者就労支援センターエール22,334→
		資源回収4,760→

法人全体 事業収入別明細 598,867,984円

単位：千円

就労支援事業 35,658	資源回収売上4,747→	←借入金利息補助金収入194	建設仮勘定取崩収入 269,754
		←寄付金収入1,357 ←施設整備補助金収入95,403	
		←受取利息・その他収入1,278	積立資産取崩収入28,021→

法人全体 事業支出別明細 613,999,327円(当期資金収支差額△15,131,343)

単位：千円

就労支援事業 36,159	事業費14,166→	◆その他の支出48	固定資産取得支出386,551
	事務費24,195→		
	人件費152,671	←支払利息支出206	積立資産支出3→

※決算報告書の詳細は法人ホームページに掲載いたします。金額は内部取引調整後の値。千円単位の表示のため、合計との差額が発生します。

踏み間違い防止への動き

高齢者による自動車事故がニュースなどで頻繁に報道されています。「ブレーキとアクセルを踏み間違えて事故を起こした」といった内容が相次いでいます。

早稲田大学名誉教授で日本交通科学学会常任理事の石田敏郎氏によると50年ほど前から、高齢者による交通事故件数にはそれほど変化していないということです。65歳以上の高齢者による

事故件数は、年によって大幅に減ることもあるようですが、ほぼ横ばいの状態となっています。しかし、その他の若い世代による事故件数は減少しているため、全体として高齢者による事故の割合が増加傾向にあるようです。このほかにもニュースなどで大きく報じられることによって、高齢ドライバーの事故が特に目立つようになっているということです。

コラム「福祉の時をつかむ」

東京都では、高齢ドライバーによる事故を防ぐ対策について検討されており、アクセルとブレーキの踏み間違いを防止する装置などを取り付けた高齢者に対し、費用の補助をする方針が示されました。高齢者に限らず交通事故で悲しい思いをされる方が少しでも無くなっています。ハンドルを持つ者として痛切に思います。

そよかぜホームページ <https://soyokaze-hamura.com>

各事業所からのお知らせ



福祉作業所ひばり園

福祉作業所ひばり園では、東京都共同募金会の助成を受け、老朽化していた作業用椅子を入れ替えることができました。ひばり園ではペアリングの組み立てや部品個装など、椅子に座っての作業が多いため、椅子の座り心地はとても重要です。支障をきたしていた昇降機能の改善や座り心地の向上、それによる疲労感の軽減が利用者のみなさんの快適な作業活動につながることを期待します。

リサイクルショップくれよん

暑い夏に欠かせないタンクトップ100円、

Tシャツ・帽子200円均一セールを行なっています。刺し子ふきん150円(写真)はどんどん難しいデザインに挑戦して色とりどりの個性豊かな作品が増えています。とても使いやすくお土産用としても人気になっておりますので是非お買い求めください。併せてご提供品もお待ちしております。ご提供いただける品物についてはホームページまたはスタッフまでお問い合わせください。

●夏季休業8/10(土)～18(日)。



福祉作業所スマイル工房

軽作業班では、乾燥えのきの販売をスタートしました。お試しタイプの1袋100円と、内容量がお得な1袋350円の2種類がござ

ります。パン・クッキー班では、パンが夏季メニューに変更になっています。塩味が効いたあんこの塩あんぱんや、ゴロゴロ具材のカレーパン、爽やかな香りのレモンピールパンなど期間限定のメニューになります。Smile Caféでは夏季限定メニューとして南国を思わせるマンゴーやパイナップルのドリンク、アイスクリームやドリップコーヒーを使った自家製コーヒーゼリー等のデザートを始めました。是非、皆さまのご来店をお待ちしています。

障害者就労支援センター エール

エールは、社会福祉法人そよかぜが羽村市の区市町村障害者就労支援事業の委託を受け、平成20年9月に開設した就労支援センターです。羽村市在住の障害のある方で、一般企業等への就職を希望されている方やすでに働いている方を対象に、就労に関するご相談や支援を行なっています。

利用時間：月曜～金曜日、午前9時～午後5時。各月の第一土曜日は開所。

※ご相談は予約をお願い致します。

資源回収のお問合せは「そよかぜ」へ。

編集後記

確固とした自分の考え方を持つことも大事ですが、時代は変化します。「最近の若いのはさあ」と、たまに言ってしまい、自分もそんな歳になったのだと実感する今日この頃です。時代の変化を感じ取り、自分の考え方を更新することも大事なことではないでしょうか。それが成長であり、人生の楽しみでもあるのかもしれません。任期満了に伴って退任された野崎前理事長の築かれた功績から、いつもそのことを感じていました。これまでご尽力くださいまして、ありがとうございました。

各事業所の連絡先



社会福祉法人そよかぜ事務局

☎042-578-0855

福祉作業所ひばり園

☎042-555-5512

福祉作業所スマイル工房

☎042-578-2723

リサイクルショップくれよん

☎042-578-2575

羽村市障害者就労支援センター エール

☎042-570-1233

指定特定相談支援事業所ゆい

☎042-555-5512